

祖父母の暮らす熊本での世界大会 シダマツペアのベストを尽くします



KUMAMOTO
SAISHUNKAN
BADMINTON TEAM

松山奈未 選手
NAMI MATSUYAMA

令和5年から熊本で開催されるバドミントンの世界大会「熊本マスターズジャパン」。町内企業の再春館製薬所所属の選手もこの大会に出場予定です。活躍が期待される選手に意気込みなどを聞いてきました。

●バドミントンを始めたきっかけ

もともと家族みんながバドミントンをしていたので、私も7歳の時に始めました。

●バドミントンの魅力

試合中の駆け引きが魅力だと思っています。相手を見ながら動きを予想して逆をついたり、そういう駆け引きの中で、相手の人間性も見えたりするので面白いです。

●世界大会が熊本で開催されることについての思い

現役の間に、所属するチームの地元で世界大会が開催されるのが、とてもうれしいです。私は福岡出身で、熊本に祖父母がいるので、身近な人たちも熊本での開催を喜んでくれています。



●大会への意気込み

いつもお世話になっている熊本の皆さんの目の前で、いい結果が残せるよう全力を尽くします。シダマツペアとしていいプレーをし、それがいい結果につながればと思っています。

●読者へのメッセージ

熊本で世界の選手たちを見ることができる貴重な機会なので、ぜひ会場で楽しんでいただきたいです。私たちの応援もよろしくお願いします。

MASHIKI TOWN CHIIKI-OKOSHI

「まち全体が
学びの場」

Vol.48



津森小ドリームましまきっ子
かげくみ
鹿毛久美さん

キラリつもりっ子

みなさんは、田植えをしたことがありますか？ 津森小では、3年生から5年生までの間、米作りの体験活動があります。

今年5月に、JAかみましき青壮年部の指導の下、5年生が苗床作りを行いました。その後6月に、自分たちで作った苗で田植えを実施。秋には稲刈りもします。

学年が上がるにつれて、経験回数が増えるので、作業もどんどん上手になります。田植えの際は、3年生から作業を始め、最後は5年生が田んぼをきれいに仕上げます。その作業スピードは大人顔負けです。

津森小の子どもたちは、地域住民の協力を受けて、冬は大根、春から夏にかけてジャガイモ、夏からは米・大豆・サツマイモを育てます。津森の特色を生かした授業、これからも続けていきたいです。

MASHIKI TOWN CHIIKI-OKOSHI

「町に虹色の
輝きを」

Vol.14



地域おこし協力隊
よしかいゆうた
吉海雄大さん

公園の誕生を寿ぐ

「寿ぐ」という言葉をご存じですか。「ことほ-ぐ」と読み、喜びを言う・祝う、という意味があります。「言祝ぐ」とも書けるそうです。

日本では工事の安全・安心への祈願、関係者への感謝を伝える方法として、起工式や落成式などが実施されてきました。それらの祝祭の場は地域にとっても大事な風景の一部だったのではないのでしょうか。

6月18日に開催した震災記念公園オープンイベントは、そんな文化を協力隊なりに実行しよう！と考え始めたのがきっかけの1つでした。町の顔となる公園の晴れ姿を皆さんにお披露目したい、永く愛される公園になってほしい、そんな関係者の想いをイベントの形式を借りて表現しました。

公園の誕生を地域の皆さんとお祝いできたこと、うれしく思います。オープンおめでとうございます！